資料３-３-１

エゾシカワーキンググループの経過報告・今後の予定

１．令和６年度エゾシカ WG の開催概要

・第１回会議　令和６年６月 25 日（火）斜里町公民館ゆめホール知床　公民館ホール

２．主な議事内容

前日に知床岬地区の現地調査を実施し、植生の回復状況やエゾシカ捕獲用の施設について確認したことから、令和６年度の実行計画案に関して、特に知床岬地区での今後の対策方針を中心に議論しました。主な意見・指摘事項は以下のとおりです。

■2023（R5）シカ年度実行計画・実施結果

・岬地区ではシカ捕獲の目標が達成されていないが、ルサ-相泊地区、幌別-岩尾別地区、および遺産地域外の隣接地区ではおおむね達成されている。

・航空カウント調査は冬期に実施している。冬のカウント数と夏に植物群落に影響を与えるシカ頭数は異なっている可能性がある。今年度（2024）には自動撮影カメラを活用した夏のモニタリングに取り組むため、そのデータが今後重要になってくる。岬地区ではシカ捕獲の目標が達成されていないが、ルサ-相泊地区、幌別-岩尾別地区、および遺産地域外の隣接地区ではおおむね達成されている。

・生態系の回復に関する植生の指標性については、これまでのモニタリングの結果も踏まえて来年度（2025）に開催される植生検討部会で検討する。環境収容力の状況の確認も含めて、シカ密度と植生との関係の検討を行う予定である。

■2024（令和６）シカ年度実行計画案について

・昨年度行われた航空カウント調査において、知床岬地区の確認頭数が引き続き高密度※となっており、今年度は捕獲を休止している期間を利用して今後の戦略を検討する。
※2021 シカ年度：78.64 頭/㎢、2022 シカ年度：63.47 頭/㎢、2023 シカ年度：93.50 頭/㎢

・過去に実績のある手法で一度叩いてシカ個体数の低密度化を図った後に、新しい捕獲手法も活用して低密度に維持し続ける考え方が有効ではないか。

・低密度化のために、シカ捕獲事業が開始された初期に実績のある冬の終わりから春先の最も早い時期の捕獲や、厳冬期のヘリを使った捕獲を再び検討してはどうか。

・過去の実績は重要だが、上記の手法は密度が低下してゆく途上では効率が落ちることが懸念されるので、主にシカの追い込み用に設置された大型仕切り柵を部分的に改良して囲いワナ化することと餌付けを併用することも検討するべき。

・主に低密度を維持するための手法としての囮シカの確保は、捕獲が休止されていてシカの警戒心が薄れているので捕獲しやすい今年度に実施すべき。入札参加する事業者

がいないとのことだが、GPS 首輪の調達に時間を要するのであればまずは耳タグのみでもよいので標識を付けることを優先するなど、可能な範囲で最大限入札しやすい仕様・条件を検討いただきたい。

・グリーンシーズンの密度を減らさないと下層植生への影響を軽減できないので、その点にも留意が必要。

・捕殺個体の搬出は大きな課題であるため、効率的に搬出する方法及び現場に残置できる場合の条件を整理していただきたい。

・WG 後にメーリングリスト上で以上の種々の意見に関連したやり取りをさらに行い、大型仕切り柵の改修による活用、厳冬期から春先の捕獲、および囮ジカの確保に関する細部を検討した。それらも踏まえつつ、時期的な制約も勘案して取り組みを実施してゆくことで合意された。

■気候変動に対する順応的管理戦略について

・モニタリングすべきものが並んでいるだけになっている。エゾシカは管理対象にも含めるべきである。管理対象なのか管理の手段なのかといったカテゴリーをしっかり切り分けて再整理したほうがわかりやすくなる。

・順応的管理とはこの文章内でどう解釈しているのかを簡単に説明しておいた方がよい。

３．令和６年度エゾシカ WG に関する今後の予定

◆第２回エゾシカ WG

令和６年 11 月（予定）

以上